

令和3年度、第164回日本獣医学会学術集会 日本比較薬理学毒性学会拡大評議員会議事録（案）

日時：2021年9月9日（木）11：15～12：15

場所 Web 会議（Zoom）、議長：池田

出席者（敬称略、順不同）：堀、池田、田島、村田、高橋、石塚、白井、福山、大浜、乙黒、池中、東、西木、金田、向田、室井、佐藤晃、西村、中川、久保田、川合、中山、鎌田、三原、太田、中村、山崎、宇野、岡田、寺岡、

議題

1) 日本比較薬理学毒性学会の留保金の使途について

資料 1-1 およびこれまでの経緯について説明があり、来年5月末までに留保金を100万円以下にする方針が春季研究会（令和3年5月22日開催）に引き続いて確認された。春季研究会以後、使途のアイデアを6月末期限で募集したが、方針が定まらなかった。そのため、ワーキンググループ（室井、岡田、高橋、大濱の各教員）を作り、10月末をめどに原案を作成することが承認された。

2) 日本獣医学会が創設予定の学術集会優秀賞と日本比較薬理学毒性学会奨励賞との位置づけについて

資料 2 に基づき、日本獣医学会が創設予定の学術集会優秀賞の概要について会長から説明がなされた。その後、日本比較薬理学毒性学会奨励賞の継続について審議した。その結果、日本比較薬理学毒性学会奨励賞を廃止して、学術集会優秀賞に移行することが承認された。必要な候補者推薦規程については、現行の奨励賞選考規程を改訂して、池田会長、堀教員、東教員とで原案を12月上旬を目途に作成することとなった。その後メール会議で本学会の承認を得た後に、獣医学会にレビューを依頼する。

3) 日本比較薬理学毒性学会の事務局について

事務局業務の概要と当番制の導入についての経緯が堀教員から改めて説明され、分科会事務局業務について現在の日獣大（田島教員）から麻布大（福山教員、梶教員）に移管されることが承認された。なお、2022年度は引き継ぎのため麻布大が日獣大のサポートを受けながら事務局を運営する。

報告事項

1) 評議員会（9/8 開催）

資料 3 に基づき主に以下の内容について報告された。

- ① 獣医学会全体の昨年度決算はコロナ禍で交通費が少なかったこともあり約460万円の黒字。
- ② 2021-22年度日本獣医学会賞が北海道大学の池中教員に授与されることとなった。
- ③ 石塚教員に加えて堀教員が2021-22年度日本獣医学会理事に就任することとなった。
- ④ 近年獣医学会が推薦する学会外表彰への応募件数が減っており、積極的な応募が理事長から依頼されたことが報告された。

2) 所属研究団体会長会議（9/2、ウェブ開催）

主に各団体の留保金に関する内容（議題1）について審議したことが報告された。

3) 実習書の進捗状況（堀教員）

実習書改定に至る経緯について説明があり、進行状況について以下の報告があった。

- ① 編集委員：堀、大濱、室井、石塚、宇野、西村の各教員
- ② 内容の骨子については検討終了。執筆分担の割り当てについては各大学で行っている実習内容に関する事前アンケートに基づき、近日中に主に研究室責任者に依頼する予定。依頼された時の各教員への協力が要請された。
- ③ 印税の扱いについては検討中。

4) 日本比較薬理学・毒性学会の名称変更

春季研究会以後、6月末期限で「日本獣医薬理学・毒性学会」への名称変更に関する意見収集を行った結果、**回答全て**が変更を是とする意見**であった**ことが報告された。8月31日付けで獣医学会久和理事長に資料4の依頼文書が提出され、理事会で検討するとの回答があったことが報告された。

5) 第164回日本獣医学会学術集会の開催状況（寺岡教員）

緊急事態宣言下のためWeb開催となったが、これまでの対面開催と同様の参加者と応募演題数が集まり、今までのところ順調に開催できていることが報告された。参加者に対する謝意と、運営上の不手際に関するお詫びが寺岡教員からあった。

6) 第165回日本獣医学会学術集会の準備状況（福山教員）

大学からの公式アナウンスはまだない状況、詳細が決まり次第案内する。会期は2022年9月6日～8日。

7) 第4回春季研究会の準備状況（臼井教員）

大学共通テスト翌週の土曜日（2022年1月22日）に開催予定。前回の大阪府大の運営を参考にコロナ感染状況に合わせて対応する。

8) 各大学・各研究室の近況報告、新任教員の紹介

池中良徳教員：北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院トランスレーショナルリサーチ推進室教授に着任。

三原大輝教員：東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻獣医薬理学教室助教に着任。

9) その他

- ・集会企画委員について（室井教員）

現在の集会企画委員は室井教員（委員長）、岡田教員（副委員長）、高橋教員、臼井教員、池中教員であることが確認された。室井教員の任期が満了に近いとため、後任指名があった際の協力依頼があった。

・学会学術誌 The Journal of Veterinary Medical Science 編集委員の任期などについて（佐藤教員）
現在の編集委員は、薬理学分野が佐藤教員、佐々木教員、毒性学分野が石塚教員。これまで、任期などについての明確な定めがなかったことから、今後、規程などが整備される可能性があることが報告された。

・2022年3月開催の日本薬理学会年会（鹿児島大学宮田会長）との共催シンポジウムについて
村田教員、池中教員で企画。第95回日本薬理学会年会（2022年3月7日～9日、福岡国際会議場・福岡サンパレス）への参加が会長から依頼された。